守山市
発達支援センターだより

令和３年 12 月号
令和３年 12 月 15 日発行

守山市発達支援センター（発達支援課）
守山市下之郷三丁目２番５号　すこやかセンター内　Tel：077-582-1158　Fax：077-581-1628

「発達障害を知ろう」講演会 開催報告

テーマ:「こどもの睡眠」についての現状と課題　～発達凸凹との関連性～
日　時:12 月4日(土)午後2:00 から午後4:00 まで
場　所:守山市民ホール　小ホール
講　師:滋賀医科大学　小児科学講座(小児発達支援学部門)　特任准教授　阪上　由子氏
参　加:92 名

毎年 12 月に守山市民を対象として「発達障害を知ろう」講演会を開催しています。今年は、滋賀医科大学小児科学講座特任准教授　阪上由子氏に睡眠の質が成長とともにどう変わっていくのか、ゲームやスマホの普及といった社会背景と睡眠の関わり、発達障害の子どもに特に生じやすい睡眠の問題についてお話しをいただきました。参加者からは、「睡眠の重要性がよく分かった。こどもがしっかり睡眠をとれる環境を整えたい」「生活リズムをしっかりと定着させることが大事だということが分かった」「こどもの行動を理解するための一助となると感じた」など、たくさんの感想をいただきました。今後も、発達障害を知り、理解を深めていただく機会として、講演会等の啓発活動に取り組んでいきます。

おしらせ

～第2回特別支援教育研修会を開催します～

テーマ:「こどもの睡眠」についての現状と課題～発達凸凹との関連性～
（市民啓発講座と同じテーマを、教職員向けに講演していただく予定です。就学前から小学校・中学校まで参考にしていただける内容となっております。ぜひご参加ください。）
日時:令和4年2月 25 日(金)　午後
場所:もりやまエコパーク交流拠点施設　工作室・環境学習室
対象:市内校園の教職員

※後日、校園へ案内文を別送いたします。
※開催方法は社会情勢により変更する場合があります。

巡回図書の紹介③　～今年度は4セットを巡回しています～

発達支援センターでは、発達支援、発達障害についての理解、啓発を図るため、市内の校園に発達障害についての図書を巡回しています。図書が校園に巡回した折に、ぜひお手にとってみてください。

C セットは、以下の5冊です。(次号は D セットを紹介します)

(1)摂食障害オバケの“ササヤキ”　(2)オフィスで事務の仕事　(3)いちごを育てる仕事
(4)ジヘーショーのバナやん　(5)～ADHD～おっちょこちょいのハリー

＊そのうちの1冊を紹介します。

「摂食障害オバケの“ササヤキ”」 ～やせたくなったら要注意～　雨こんこん作

「ハワイの心理士のアニータ・ジョンストン先生は、『摂食障害は激流の中で必死につかまっている丸太です。家族は、岸辺から《丸太を放してすぐに泳いでおいで》と言いますが、本人は放したら溺れてしまいます。泳ぎ方を教えてあげるのが治療です。』と言います。どうぞ、食事や体重にだけ注目しないで、本人の不安や挫折感に気づいてあげてください。疲れ果てた本人を責めたり、見放したりしないでください。チームを組んで『気楽になる』ことを後押ししてあげてください」とあとがきにあります。

摂食障害当事者だった作者の絵本。　心にしみじみと訴えてきます。

発達特性の捉え方と支援のポイント

発達特性が見られる子どもたちは、集団生活をおおむね問題なく過ごしているように見られがちですが、ある特定の状況下においては大きな困り感をもっていることが少なくありません。普段は表面化していないため、“困っている”と思われにくく、必要な支援が受けられないことがあります。

● 困りごとを表面的に捉えるのではなく、その要因を探る

例えば…

	＜落ち着きがない＞	＜板書を全く写さない＞	＜ウソばかりつく＞
要因	・感覚的な欲求が強い ・姿勢を保つことが難しい ・無意識に身体が動いてしまう ・暗黙の了解が分からない	・読み書きが苦手 ・視力、眼球運動が弱い ・他の刺激に反応してしまう ・ワーキングメモリーが弱い	・物事を客観的に捉えられない ・失敗を避けようとする ・注意を引きたい ・上手にウソをつけない
支援	・体を動かせる時間をつくる ・滑り止めを置く ・活動できていることを認める ・ルールとその意味を伝える	・ＩＣＴを活用する ・板書の仕方を工夫する ・掲示物を減らす ・プリントを活用する	・お互いの捉え方をすり合わせる ・できていることを認める ・本当に伝えたいことを汲み取る ・周囲が理解しておく

ものごとがうまくいかない原因を、努力不足ととらえ、ひたすら継続して取り組ませるだけでは、失敗体験の繰り返しになってしまいます。子どもたちは、失敗体験を積み重ねると、困難に向かいにくくなっていきます。そのため、**子どもにとっての苦手さに対して、その原因にあった支援をすることがとても大切**になります。支援が適切でない場合には、二次障害を引き起こしてしまうこともあり、不登校に結びつくことも少なくありません。**“子どもがうまく生活できない”、“学ぶことができない”といった困りごとには、それぞれの理由が必ずあります。**

● 課題や苦手のみに注目せず、強みを分析する

例えば…

	＜人前で話すことが得意＞	＜工作が得意＞	＜ゲームが得意＞
強み	・ストレス耐性が高い ・言語理解力が高い ・独自の視点で話すことができる	・創造性に富んでいる ・順序立てて物事を考えられる ・手先が器用である	・探求心がある ・空間認識能力が高い ・状況判断する力がある
活かす方法	・エネルギーが必要な活動に向く ・書くより話す方が得意である ・議論する場で活躍できる	・プレゼンで力を発揮できる ・計画立案が得意である ・細かい作業を行う場で活躍する	・調べ学習が得意である ・スポーツで活躍できる ・リーダーに向いている

みんなができることができないかと思えば、ある分野で素晴らしい力を発揮します。**困りごとと同様に、できることにも背景があります。**得意分野での原因分析も行い、新たな活動機会に繋げたり、苦手の代替機能として活用できるように働きかけたりして、**子どもの得意を伸ばしていくことが大切です。**